

戦略的創造研究推進事業
(社会技術研究開発)
平成27年度実装活動報告書

研究開発成果実装支援プログラム
「エビデンスに基づくスクールソーシャルワーク
事業モデルの社会実装」

採択年度 平成26年度

実装責任者氏名 山野 則子 (大阪府立大学、教授)

1. 概要

I 効果的モデル構築

実施マニュアル・評価マニュアルの活用を26年度に続き、各地域で実践した。拠点地域での実装を定着させるべく、大阪府立大学のメンバーが地域に出向くなどして、マニュアル活用をさらに進めるワークショップなどを開催した。

全体では、

- ①マニュアル活用のためのファシリテーションの構造化を行い、ファシリテータ養成を開始した。
- ②各地域でマニュアル活用を推進するため、ファシリテータの手引きを作成した。
- ③Webシステムの改善を行った。
- ④各自治体が理解しやすいように、効果モデルの内容と流れの簡易版リーフレットを作成した。
- ⑤自治体がお互いに情報交換し取り入れやすくなるように効果的なモデルの社会実装に関する研究報告会を行った。
- ⑥海外の研究者との意見交換を行う国際シンポジウムを開催した。
- ⑦エビデンスに基づく実践をベースラインとして進めている先進地（アメリカ）から助言をもらい、先進的な知見の発信のため、外書の和訳を進めた。
- ⑧日本社会福祉士養成校協会のSSW養成講座に、開発したマニュアル活用のワークショップ方式の研修を提供した（来年度も回数増やして共同開催予定）。
- ⑨法務省から依頼を受けて、効果モデルの構築と社会実装の助言を行った。（来年度も継続予定）

II 切れ目のない支援システムの構築

- ①シンポジウムを開催し、子どもの貧困、生活困窮、子ども若者の課題、児童虐待、孤立など子育て支援、健全育成的課題などの支援的視点からの報告、検討を行った。
このため9月にシンポジウムを開催し、その成果および自治体の取組み状況を書籍にまとめた。
- ②研究会を開催して、イギリスの例やアメリカの例を学び、仕組みの取り入れを検討した。
- ③文部科学省中央教育審議会や部会、内閣府子どもの貧困検討会議などにおいて、本研究報告を行い、支援システム案を提案し、国の政策作りに貢献した。
- ④府や市においてモデルづくりの相談を複数件受け、助言した。
- ⑤新聞・TVなどで実装したSSWモデルが取り上げられ、複数回出演した。

2. 実装活動の具体的内容

I 効果的モデル構築

平成25年度に作成した冊子版の『効果的なスクールソーシャルワーカー配置プログラム実施（改訂版）マニュアル・評価マニュアル～全国調査、試行調査の実証、実践家の議論を経て～』（以下、「マニュアル」とする）を、平成26年度、ウェブ版マニュアルとして活用するため、委託によるウェブ構築を行った。平成27年度はこの活用のためのファシリテーションを各地において推進するため、ファシリテーションの構造化を行い、ファシリテータ養成を開始した。

年度前半に開催した研究会において、ファシリテータとして各地でリーダーシップを取るメンバーで集まり、ファシリテーションの構造化に向けての意見交換やワークショップの演習を行った。そこで挙げられた意見などを府大メンバーでさらに検討し、洗練した。年度後半では、それを用いたファシリテータ養成講座を実施し、各地で拡大していくために役割を担う人々が集まった。最終的に、これらの動きを経て、ファシリテーションのための手引きを作成した。ウェブもより活用を進めるため、改善を重ねた。

さらに、プログラムモデルを各自治体が導入できるため、理解を促進するための簡易版リーフレットを作成し、効果モデルの内容と流れ、具体的な項目について図で掲載した。27年度末の時点で、全国の自治体に発送している。現在活用している自治体や、今後導入する自治体などに3月に集ってもらい、情報交換を行った。現在活用している自治体からの報告を受け、各自治体での課題への取り組み方や進め方などを議論する場を設けた。

国際的な面でも活動を進めた。アメリカ、イリノイ州において先進的にスクールソーシャルワークを実践・研究しているイリノイ大学の研究者に来日してもらい、意見交換を行う国際シンポジウムを開催した。また、エビデンスに基づく実践をベースラインとして進めている先進地（アメリカ）から助言をもらい、先進的な知見の発信のため、外書の和訳を進めた。

広く広めていくためにも、日本社会福祉士養成校協会から依頼を受けて、SSW養成講座に、開発したマニュアル活用のワークショップ方式の研修を提供した。参加者が九州から北海道まで広く定員いっぱいまであり、来年度も回数増やしてスクールソーシャルワーク評価支援研究所として共同開催を予定している。

法務省の効果検証専従班より依頼を受けて、薬物依存離脱指導のための効果モデルの構築と社会実装の助言を行った。来年度も引き続き、この評価支援の取り組みも継続していく予定である。

II 切れ目のない支援システムの構築

実装促進組織として、切れ目のない支援システム検討会を組織した。子どもの貧

困、生活困窮、子ども若者の課題、児童虐待、孤立など子育て支援、健全育成的課題などの支援的視点からの検討を行った。9月にこれらの学際的なメンバーを集めシンポジウムを開催し、学校プラットフォームの構築に関し、コメントや報告を求めた。この成果は全国自治体の取組状況と併せて、書籍として刊行した。

また、これらに関連する知見を海外から導入するため、研究会を開催して、イギリスやアメリカから先進的な事例を学び、仕組みの取り入れを検討した。

本実装責任者が、文部科学省中央教育審議会やその部会「学校地域協働部会」「地域と共にある学校部会」委員に選任され、また内閣府子どもの貧困検討委員会の構成員であることから、子どもの貧困に関するフォーラム等と呼ばれ、本研究報告を行い、支援システム案を提案し、国の政策作りに貢献した。

府や市において、スクールソーシャルワークを活用した政策モデルづくりの相談を複数件受け、具体的にシステム作りに貢献した。新聞・TVなどで実装したSSWモデルが取り上げられ、複数回出演し、社会的反響をもたらした。

3. 理解普及のための活動とその成果

(1) 展示会への出展等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2016年1月27日	大阪府立大学記者懇談会	i-siteなんば	大阪府立学長が大学のキーマンに研究のお披露目を企画し、口頭発表、ポスター発表を実施。学内で3者の口頭発表者として本プログラムを発表。	新聞社	3社から取材有

(2) 研修会、講習会、観察会、懇談会、シンポジウム等

年月日	名称	場所	概要	ステークホルダー	社会的インパクト
2015年5月17日	第11回効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会	大阪府立大学なかもずキャンパス A4棟305教室	ワークショップのうち3つのバージョンについて構造化の検討を行った。コアメンバーがグループごとのファシリテータ役になって、全員でグループ別にロールプレイを行った。 (参加者15名)	地域のSSW関連リーダー的人材	都道府県教委が見学参加
2015年6月14日	第12回効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会	大阪府立大学なかもずキャンパス A4棟305教室	ワークショップのうち5月に行わなかった2つのバージョンについて構造化の検討を行った。コアメンバーがグループごとのファシリテータ役になって、全員でグループ別にロールプレイを行った。 (参加者14名)	地域のSSW関連リーダー的人材	
2015年9月26日	すべての子どもを包括する支援システム：学際的議論 ～「学校プラットフォーム」の意味とは～	大阪府立大学なかもずキャンパス学術交流会館小ホール・多目的ホール	子どもの問題の喫緊の課題に対し、平成26年夏に子供の貧困対策大綱が成立した。その内容の1つにスクールソーシャルワークが明記され、5年後には中学校に1人の配置が示唆された。しかし、人を配置すればいいというものではない。明示された学校プラットフォームの意味について、学際的な議論を行った。 (研究会参加者88名・シンポジウム参加者300名)	各自治体教育委員会の政策立案者	全国都道府県から参加 マスコミ取材
2015年12月	第13回効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会	大阪市立青少年センター	メンバーが養成講座の講師役をつとめ、今後	地域のSSW関連	

19-20日	方研究会 評価ファシリテータ養成講座		地域でファシリテーションを行う新たな人材の育成を開始した。養成講座終了後に、養成講座でやってみた結果を反映させて「手引き」の執筆箇所を修正→「手引き」の完成（ファシリテーションの構造化の完了） (参加者両日とも36名)	リーダー的人材	
2016年1月24日	第14回効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会・国際シンポジウム	大阪府立大学なかもずキャンパス学術交流会館小ホール・多目的ホール	研究会では、イギリスにおけるエクステンデッドスクールについて報告いただいた。国際シンポジウムでは、イリノイ州でのエビデンスに基づくスクールソーシャルワークやすべての子どもたちへのサービス提供がなされる仕組みについて、イリノイの研究者に発表いただいた。 (研究会参加者20名・シンポジウム参加者43名)	SSW研究者、地域のSSW関連リーダー的人材	大阪社会福祉士会ニュースに掲載 (安部総理の次にインタビュー時期掲載)
2016年3月13日	第15回効果的なSSW事業プログラムのあり方研究会	大阪府立大学なかもずキャンパス I-wingなかもずグローバスコモンズ	2012年度から検討・作成してきた本プログラムを活用した複数の自治体に報告いただいた。 (参加者44名)	全国市町村教育委員会SSW担当者	

(3) 新聞報道、TV放映、ラジオ報道、雑誌掲載等

①新聞報道

- 朝日新聞「『気にかけてほしかった』『集団暴力エスカレート』元非行少年ら 川崎・中1殺害に思う」(2015.4.4 朝刊 33面)
- 東京新聞「『18歳の壁』高く」(2015.4.7 朝刊 24面)
- 毎日新聞「学外のプロ 積極活用を」(2015.4.16朝刊 10面)

- 中日新聞「学校だけで抱えないで」(2015.5.4朝刊 6面)
岩手日日新聞「子育て支援へ「親学習」大阪府核家族化による孤独防ぐ
(2015.5.14)
福島民法「親学習で子育て支援」(2015.5.21情報ナビTime)
山口新聞「家庭環境に課題、児童・生徒への支援 専門会議、理解深める
(2015.6.12朝刊 3面)
日本教育新聞「問題行動の背景に貧困 横浜市児童・生徒指導中央協議会SSWな
どと連携支援を」
日本教育新聞「『訪問型』で不登校にも対応 自治体の『家庭教育支援』促進」
NHK週刊ニュース深読み「先生は？親は？大人たちは？どうする不登校12万人」
(2015.8.29)
朝日新聞「中教審が答申案『学校に福祉専門家を』朝ご飯なし・多い欠席 児童
『異変』に対応」(2015.12.11朝刊 37面)

②TV放映

- ニュース深読み「先生は？親は？大人たちは？どうする不登校12万人」
NHK総合, 2015.8.29.

③ラジオ報道

④雑誌掲載

(4) 論文発表 (国内誌 18件、国際誌 1件)

- ・横井葉子 (2015) 「A市におけるスクールソーシャルワークのプログラム評価ー
地域の問題に即した効果の明確化と実践課題の抽出ー」『学校ソーシャルワーク
研究』10, 24-36.
- ・駒田安紀・山野則子 (2015) 「社会福祉士・精神保健福祉士資格所有状況による
実践の差の検証ー効果的スクールソーシャルワーカー配置プログラム構築に向け
た全国調査よりー」『学校ソーシャルワーク研究』10, 37-48.
- ・大友秀治 (2015) 「日本のソーシャルワーク・スーパービジョン研究に関する近
年の動向」『学校ソーシャルワーク研究』10, 60-71
- ・Elizabeth Lehr Essex, Noriko Yamano, and Carol Rippey Massat (2015)
'Making School Social Work Visible, Viable, and Valued' In: Carol Rippey
Massat, Michael S. Kelly, and Robert Constable eds. *School Social Work:
Practice, Policy, and Research*, 8th edition, LYCEUM BOOKS.INC, 419-436.
- ・武田信子監訳・山野則子ほか訳 (2015) 「ダイレクト・ソーシャルワーク・ハン
ドブック」明石書店.
- ・山野則子 (2015) 「いじめ・不登校 管理職が校内に不登校対策のしくみをつくる
こと、スクールソーシャルワーカーの仕事を知ることが大事 (特集 川崎中1殺害事
件が学校に問うもの)」『総合教育技術』70(3), 50-53.
- ・山野則子 (2015) 「家庭教育支援のためのチームづくり : SCやSSW、各種の学校

- ・サポーターとの連携（特集 小学一・二年生の家庭教育）『児童心理』70(7), 59-65.
- ・山野則子・武田信子編（2015）『子ども家庭福祉の世界』有斐閣
- ・『社会保障制度改革とソーシャルワークー躍進するソーシャルワーク活動Ⅱー』中央法規, 2015.
- ・山野則子（2015）「スクールソーシャルワークの歩みと課題」学校ソーシャルワーク学会、75-76.
- ・山野則子（2015）「第4章 母親が子育てに行き詰まり脱出するプロセス モデルの構築とその実践的活用」『ケアラー支援の実践モデル』共著（著者数：7人、編著：木下康仁）ハーベスト社, 134-160.
- ・山野則子（2015）「気になる子ども、障害のある子どもへの支援」全国保育協会『保育年報2015新たな時代の子育て支援と保育を展望する』全国社会福祉協議会、2015, 40-42.
- ・山野則子（2015）第2章6節「全国研究を通じた教育委員会とスクールソーシャルワーカーに求められる役割」『スクールソーシャルワーク実践技術 認定社会福祉士・認定精神保健福祉士のための実習・演習テキスト』共著（著者数：54人、編著：米川和雄）北大路書房, 2015, 32-35.
- ・山野則子（2015）『新しい時代の教育や地方創生の実現に向けた学校と地域の連携・協働のあり方と今後の推進方策について（答申）」と子どもをめぐる課題～家庭支援も視野に施策の展開を～』月刊社会教育、No.836、平成28年2月、42-43.
- ・山野則子（2015）『平成27年度家庭教育の総合的推進に関する調査研究～訪問型家庭教育支援手法について～』文部科学省委託調査報告、山野則子、総213頁、平成28年3月
- ・山野則子（2015）『訪問型家庭教育支援の関係者のための手引き』（監修：山野則子 他11名、座長：山野則子）総4頁、平成28年3月、文部科学省
- ・山野則子（2015）『「効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラム」評価ファシリテーションの手引き』（代表研究者：山野則子）総55頁、平成28年3月、スクールソーシャルワーク評価支援研究所
- ・『効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムのご案内』、平成28年3月、スクールソーシャルワーク評価支援研究所
- ・山野則子／スクールソーシャルワーク評価支援研究所編（2016）『すべての子どもたちを包括する支援システム～エビデンスに基づく実践推進自治体報告と学際的視点から考える』せせらぎ出版、総255頁、平成28年3月

（5）WEBサイトによる情報公開

<http://www.human.osakafu-u.ac.jp/ssw-opu/>
（スクールソーシャルワーク評価支援研究所）

（6）口頭発表（国際学会発表及び主要な国内学会発表）

- ① 招待講演 （国内会議 16 件、国際会議 0 件）

- ・有村内閣特命大臣レク「効果的なスクールソーシャルワーク」平成27年4月
- ・「子供の未来応援国民運動」発起人集会「スクールソーシャルワークとは」平成28年4月
- ・文部科学省中央教育審議会学校チーム学校部会「子どもが抱える課題への構造化した仕組み作り～教育と福祉の協働システムの可能性～」平成27年4月
- ・自民党教育再生会議「効果的なスクールソーシャルワーク」平成27年6月
- ・文部科学省内会議「効果的なスクールソーシャルワークプログラム」平成27年4月
- ・文部科学省中央教育審議会学校地域協働部会「子どもが抱える課題への構造化した仕組み作り～教育と福祉の協働システムの可能性～」平成27年7月
- ・文部科学省中央教育審議会チーム学校部会「スクールソーシャルワークの効果的なあり方」平成27年8月
- ・島尻内閣沖縄担当大臣レク「子どもの貧困対策について～現状と課題～」平成27年11月
- ・文部科学省教育相談のあり方に関する調査研究者会議「エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク事業モデルの開発、普及」平成28年1月
- ・文部科学省家庭教育全国研究大会「これからの時代の家庭教育支援のあり方」平成28年1月
- ・内閣府青少年育成支援機関近畿ブロック連携会議「国の動向とスクールソーシャルワーク」平成28年1月
- ・内閣府主催「子供の未来応援国民運動推進事業・子供の貧困対策フォーラムin東京／大阪」基調講演「子どもの貧困対策～スクールソーシャルワークの視点から～」平成27年3月
- ・「生活の困窮と学習支援～夜間中学校や定時制・通信制高校の取り組みから～」日本学校ソーシャルワーク学会、平成27年6月。
- ・『大会シンポジウム 変革：ミクロからマクロへの戦略～実践家・利用者・住民参画による効果的な支援環境開発の方法：プログラム開発と評価を中心に』山野則子「エビデンスに基づく効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの構築と実施・普及 ～現場で使える教育行政との協働モデル～」日本ソーシャルワーク学会、平成27年7月。
- ・「包括な子ども支援のプラットフォームとスクールソーシャルワーカー教育行政・学校への期待と課題」日本教育行政学会、平成27年10月
- ・「新たなソーシャルワークの領域と社会福祉教育～学校領域のソーシャルワーク～」日本社会福祉教育学校連盟教育セミナー、平成27年11月

② 頭講演 (国内会議 2 件、国際会議 0 件)

- ・駒田安紀・山野則子「効果的なSSWer配置プログラム修正モデルに基づく試行調査」子ども家庭福祉学会、2015年6月7日、関西学院大学。
- ・大友秀二・横井葉子・山野則子(2015)「実践家参画型ワークショップによる評価ファシリテーションの構造化～効果的なスクールソーシャルワーク事業プログラムの形成評価」日本ソーシャルワーク学会、平成27年7月、同志社大学

③ ポスター発表 (国内会議 0 件、国際会議 0 件)

(7) 特許出願

①国内出願 (0件)

(8) その他特記事項